



平成 29 年
亀山市成人式

決意新たに、二十歳の門出

新成人の皆さん、ご成人おめでとうございます。今年、成人式を迎えたのは、平成8年4月2日から平成9年4月1日までに生まれた人で、456人が晴れて新成人となりました。

亀山市では、1月8日に市文化会館で成人式を開催しました。笑顔で再会した新成人たちは、記念すべきこの日をみんなで祝い、そして大人への新たな一歩を踏み出しました。



新成人のことば

※新成人を代表して発表された「新成人のことば」を紹介します。

これまで支えてもらったように、
これからは支える存在になりたい



関司彩夏さん
(みずきが丘)

私には、小学校高学年の頃から持ち続けている夢があります。それは、「建築士になる」という夢です。この夢を目指すようになったきっかけは、あるテレビ番組でした。それは、リフォームの番組です。匠^{たくみ}という人が欠陥住宅を直して、その家の持ち主を感動させていました。それを見て、私も人を感動させる

ことができる建築士になりたいと思いました。

高校の進路を決定するとき、とても悩みました。普通科高校に通うのか、それとも建築科のある工業高校に通うのか。何回も、家族や中学校の先生と話し合いました。私は、目指すものの勉強が早くできる工業高校に通いたいと思っていました。工業高校は男子が多く、その中でやっていけるのか、また専門の勉強を主に行うため、途中で夢が嫌になったら学校を辞めないか心配だった両親は反対しました。しかし、私の意志が固かったため、両親を説得することができました。そのとき、『自分の決めたことやから、最後まであきらめたらあかんよ』と両親に言われた言葉が、自分のやる気につながりました。また、その言葉があったからこそ受験や高校で大変なことがあっても乗り越えることができました。

今も愛知県の大学に通い、建築士になるため、日々勉強しています。高校進学するとき、夢について真剣に考えることがなければ、今もその夢を目指し続けているかは分かりません。今となれば、そのとき真剣に考え悩んで良かったと思います。

これからも、さまざまな場面で人生の選択をすることがあると思います。そのとき、悩まず簡単に決めるのではなく、多くの人の意見を聞き自分が納得できる選択をしたいと思います。そして、自分の決めたことは最後まで責任を持ってやり通したいです。

最後に、成人を迎えるまで多くの人に出会い、支えてもらったからこそ、今の自分があると思います。相談ごとに乗ってくれて、元気がないときには馬鹿なことをやり元気にしてくれる友達。さまざまなことを教えてくれた先生、地域の方々。そして、誰よりも私のことを考えて見守り、大きく成長させてくれた両親。今までありがとうございます。そして、これからもよろしくお願ひします。これからも、多くの出会いを大切に、さまざまな人と支え合いながら、今まで自分にしてもらってきたことをほかの人に行えるような、素敵な大人になっていきます。

学生時代に学んだことを糧に
社会人としてしっかり自立したい

私は、鈴鹿高専に在学中で、水泳部でキャプテンをしていました。鈴鹿高専の水泳部は、競泳だけでなく、男子のシンクロナイズドスイミング「ウォーターボーイズ」の活動もしています。

ウォーターボーイズは、10月にある文化祭での公演を目標に、日々練習をしています。2日間の文化祭では1回ずつ公演をして、毎年2,000人ほどのお客さんに見ていただいています。私も中学時代に客として見に行き、そのすばらしさに衝撃を受けて、鈴鹿高専に入ってウォーターボーイズをしたいと思います。

この5年間で、練習や公演を通じて学んだことが2つあります。

1つは、グループで何かをすることの苦労や楽しさです。選曲、編集、振付のすべてをメンバーが受け持っています。良い演技をするという目標に向かって何度も練習し、また意見を出し合い努力しました。みんなの支えがあったからこそ、まとまった演技ができたメンバーに感謝しています。これは、社会に出ると大切なことだと思います。会社では上司、同期、後輩がいて、多くの人と協力して仕事をしていきます。そこにチームワークや良い関係が築けていないと仕事はうまく進みません。私は水泳部で培ったチームワーク、仲間への感謝の気持ちを大切に、多くの人と関わり、協力して社会に貢献していきたいと思っています。

そしてもう1つ学んだのは、人のために何かをすることの喜びや達成感です。ウォーターボーイズの目的は、人に元気や笑顔を届けることでした。公演中には、お客さんの笑顔や拍手、歓声が聞こえ、なかには感動して涙を流してくれる方もいました。私はそんなお客さんを見て、自分の行動によって人に何かを与えることのすばらしさに気付きました。またこれも人生で大切なことだと感じました。

これから、私は社会人の一員となりますが、どんな仕事でもどこかで人とつながっていて、人のために役立っていると思います。仕事は大変でつらい思いをしたり、落ち込んだりすることもあると思いますが、そのときは、学生時代に学んだ人とのつながりの大切さを思い出し、前に進んでいこうと思います。

最後に、私は多くの人に支えられ、ここまで大きく成長することができました。特に両親には日頃から助けられてばかりです。その両親に今一番できる恩返しは、社会人として自立することだと思っています。



山中智貴さん
(上野町)